

令和7年度 荒川区立第二峡田小学校 学校経営方針

荒川区立第二峡田小学校
校長 川上 晋

1 学校の教育目標

- よく学ぶ子 (重点目標)
- 思いやりのある子
- 元気な子

2 学校の教育目標を達成させるための方針と具体的な取組【昨年度からの変更点・追記】

1 自ら考え、試行錯誤し、表現する

① 児童が「分かる、できる、楽しい」と感じられる授業

- 児童の知的好奇心を育み、学びの充実感・有用感をもたせる授業
- 学習指導要領に示された「学習の基盤となる資質・能力」(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)の育成
 - ・個に応じた指導を大切にした算数科の習熟度別学習(3年生以上)、放課後学習「あらかわ寺子屋」の充実
 - ・学習支援・学校生活支援を行うエデュケーション・スタッフの配置
 - ・電子黒板、タブレットPC、学習者用デジタル教科書などのICTを効果的に活用
 - ・家庭でも使えるオンライン学習ソフト「スマイルネクスト」「虹色ボックス」やGoogle Workspace for Educationを活用した個別学習、協同学習の推進
 - ・キューブ型ロボット教材を活用したプログラミング学習の開発・実践
 - ・東京方式 習熟度別指導ガイドラインに沿った指導計画、東京ベーシック・ドリルの活用
 - ・家庭と連携した学習習慣、読書習慣(家読)^{うちどく}の推進
 - ・学校図書館を活用した「調べる学習」の充実(荒川区調べる学習コンクールへの参加)

② 研究・研修・OJTの充実による教員の授業力の向上

- 授業研究による授業改善
- 特別支援教育の充実と教職員研修
- 教師の専門性、指導技術を向上させるOJT(On Job Training)の取り組み
 - ・大学教授や専門家を招聘した実践的な授業研究
 - ・主任教諭、巡回指導教員の専門性を生かしたOJTの実施
 - ・ICT機器の効果的な活用のための研修の充実

2 自他を尊重する たくましく しなやかな心身

① 人権尊重の理念のもと、全教育活動で心の教育を推進

- 東京都教育委員会 人権尊重教育推進校として、「自他を認め、高め合う二峡の子～人権感覚の向上を目指して～」を研究主題として取り組む人権尊重教育
- 児童理解に基づいた生活指導の充実
- 人間関係の中で育まれるコミュニケーション能力と規範意識の育成
 - ・「すくすく人権」:授業以外で育む自分を大切にし、相手を知り、認める活動
 - ・異学年で交流する「たてわり班」「ペア学年」
たてわり班遊び、たてわり百人一首、朝ウォーク、行事の活動を認め合う活動 など
- 特別の教科 道徳の授業を要とした道徳教育の充実

- 生き物が生息するビオトープ、学びの合間にほっと一息できる緑と笑顔の憩い空間の整備
- いじめ、不登校、虐待、ヤングケアラーなど児童を取り巻く課題への未然防止、早期発見、迅速な解決、学校生活アンケートの実施、荒川区子ども家庭総合センターとの連携
 - ・朝のあいさつ運動(あいさつレンジャー)の取り組み
 - ・**登校支援を行うサポートルームの新設に向けての検討**
 - ・「学校生活支援シート」「登校支援シート」の活用による保護者と連携した特別支援教育、登校支援の充実
 - ・都のスクールカウンセラー(SC)、区の心理専門相談員、福祉専門相談員(SSW)による教育相談の充実
 - ・特別支援教室「二塙教室」の拠点校を生かした巡回指導教員の指導

② 体力の向上と健康の保持増進

- 体力の向上と習慣化を目指した活動の取り組み
- さまざまな活動と連携した食育の充実
- 自分の健康を守る生活習慣づくり
 - ・**東京都統一体力テストの実施と結果の分析**
 - ・峠田地区7校による連合運動会(6年)の取り組み
 - ・東京オリンピック・パラリンピック大会の精神を引き継ぐ「学校2020レガシー」の取り組み
 - ・組織的な食物アレルギー対策(給食、移動教室等の食事、調理実習等)
 - ・エピペン®使用も含めた食物アレルギー対応研修の実施
 - ・家庭と連携した生活習慣・健康習慣の確立

3 安心・安全な学習環境と開かれた学校

① 児童が安心して通える学校

- 毎月の避難訓練(火災・地震・不審者・洪水)や安全指導、防災教育、安全点検の実施
- 多くの人が連携して、子供たちの安全を守る
- 児童自らが自分を守る意識を高める
 - ・実施日・時刻を知らせない避難訓練の実施
 - ・緊急時に備えた児童引き渡し訓練の実施
 - ・児童交通安全指導員、児童安全推進員との連携による上下校時の安全確保
 - ・スクールサポーター(荒川警察)と連携した校外生活指導
 - ・学校入口に人が見守る「スクール安全ステーション」の設置
 - ・自転車安全教室、セーフティ教室の実施

② 学校・家庭・地域との連携と開かれた学校づくりの推進

- 自分の学校、自分の地域を愛する気持ちの醸成
- 土曜に授業を行うオープンスクールの実施**
- 学校の活動を積極的に情報発信
- 児童・保護者・学校評議員制度による学校関係者評価
- 地域行事参加の積極的な奨励
 - ・学校だより、学年だより、学校前掲示板、ホームページ、「スクリレ」アプリによる情報発信
 - ・PTA活動、二塙小 Fathers(父親の会)との連携
 - ・青少年育成荒川地区委員会、町会などの行事への参加の推奨
 - ・**ドンとやろう大会、子どもオリンピック、親善スポーツ大会、地域のお祭り、**
 - ・**「社会を明るくする運動」パレード など**

3 学校パワーアップ全体構想

学校パワーアップのための基本方針・各事業内容		
◎人権尊重の理念のもと、児童理解、道徳教育を充実させ、コミュニケーション能力や規範意識の育成を図り、自他を尊重する児童を育成する。 ◎「分かる、できる、楽しい」と感じられる授業を目指し、一人一人の教師の授業力向上を図り、思考力・判断力・表現力等や情報活用能力等を育成する。		
学力向上マニフェスト	創造力あふれる教育の推進	未来を拓く子どもの育成
○教員の授業力の向上 ・大学等から専門性の高い講師を招聘し、指導していただく。 ・教員の指導技術向上に関する資料の定期購読、認知機能を高める教材の活用などを通して授業改善を図る。 ○主体的な学びの推進 ・家庭でも利用できるオンライン学習ソフトやプログラミング教材、マイ辞書の整備を進めることで、児童自ら学ぶ主体的な態度を育成する。	○児童の情報活用能力の育成 ・校内のＩＣＴ機器を充実させタブレットＰＣを始め、児童が活用する機会を増やし、情報リテラシーを高め、情報活用能力の育成を推進する。 ○プログラミング的思考の育成 ・3～6学年においてロボット教材を活用したカリキュラムを開発、実践してプログラミング的思考を育成する。 ○充実した学習環境の整備 ・表現豊かな学芸会にするためＬＥＤスポットライト等を整備する。 ○心の教育の充実 ・講師を招聘した道徳授業地区公開講座の実施、及び教育相談に関する物品を整備する。	○個性を磨く専門家の技 ・様々な専門家の指導により、多様な学びを体験する機会を充実させる。 ○生き物とのふれあいと豊かなビオトープ ・飼育動物とのふれあい、ビオトープ等の整備により、自然や環境を守る意識を醸成する。 ○特別支援教育の充実した環境 ・設備、ＩＣＴ機器等を活用した環境を整備することで、特別支援教室拠点校として、専門性の高い指導を推進する。

◎学校パワーアップ事業に関連した学校予算（予定）

〔学力向上マニフェスト〕

○教員の授業力の向上

- ・校内研究における専門性の高い講師を招聘
- ・教員の指導技術向上に関する資料を学校で統一して購入
- ・コグトレ(Cognitive Training:認知機能向上)学習教材の活用

○主体的な学びの推進

- ・家庭でも使えるオンライン学習ソフト「スマイルネクスト」、プログラミング教材「虹色 BOX」の購入
- ・1人一冊のマイ辞書を整備して活用していく。

〔創造力あふれる教育の推進〕

○児童の情報活用能力の育成

- ・学校独自で教員・児童が汎用的に使えるタブレットを購入
- ・児童用マウスの整備

○プログラミング的思考の育成

- ・キューブ型ロボット教材の購入、支援員への報償費、環境整備

○充実した学習環境の整備

- ・表現豊かな学芸会にするため、LEDスポットライト等の整備

○地域・保護者と連携した教育活動

- ・道徳授業公開講座の講演 講師報償費

〔未来を拓く子どもの育成〕

○個性を磨く専門家の技

- ・学校 2020 レガシーの趣旨も踏まえ、オリンピック種目になったダンスの地域講師
- ・音楽体験教室(馬頭琴・箏・和太鼓など)の実施
- ・なわとび講師による指導

○生き物とのふれあいと豊かなビオトープ

- ・学校ビオトープ、[水田跡地](#)の環境整備、緑のカーテン用苗、栽培用具等、飼育動物の餌、飼育用具 等

○特別支援教育の充実した環境

- ・[特別支援教室「二峡教室」の学習環境の整備](#)